

予算と税金(その4)

一級町村時代の主要な予算の支出
(村づくりは人づくり)

一級町村制となった昭和四年(一九二九)から終戦を迎えた昭和二〇年(一九四五)までの端野村予算の主要な支出をみてみますと、下表のとおり「教育費」が四割から五割、「役場費」が二割から三割を占めており、分村時代からその割合はあまり変わりありません。しかし、昭和一六年(一九四一)四月に施行された「国民学校令」(詳細については端野小史四二号に記載)により、村立学校の管理運営を要する経費のうち、教員の給与については国が負担することとなり、予算総額に占める教育費の割合は約二割程度減少しました。分村時代から終戦の昭和二〇年までの予算の歳出のうち「教育費」が平均して六割弱を支出してきたことは、当時の制度上の要因であったとはいえず、「村づくりの基本は人づくり」という理念があったことが伺えます。また、昭和八年度に予算総額の約五割、同一〇年度には一割強の予算を「冷害対策費」に充てていますが、農業が基幹産業である端野村にあっては、経済的基盤の確立のために、

自立した農業経営者の育成が不可欠であったと考えられます。

▼昭和4年度から昭和20年度までの主要な歳出(支出)

年度	予算総額	役場費	割合	教育費	割合	備考
昭和4年度	79,601円	15,723円	19.8%	32,181円	40.4%	
同5年度	58,212円	15,535円	26.7%	32,403円	55.7%	
同6年度	65,235円	13,384円	20.5%	33,611円	51.5%	
同7年度	58,811円	13,561円	23.1%	31,287円	53.2%	
同8年度	166,430円	15,983円	9.6%	46,071円	27.7%	冷害対策救農事業費 88,510円
同9年度	87,979円	16,328円	18.6%	46,385円	52.7%	
同10年度	92,062円	16,609円	18.0%	42,673円	46.4%	冷害対策費 10,000円
同11年度	82,795円	16,217円	19.6%	39,781円	48.0%	
同12年度	89,838円	17,888円	19.9%	51,423円	57.2%	
同13年度	90,317円	21,817円	24.2%	45,977円	50.9%	
同14年度	88,266円	22,364円	25.3%	43,787円	49.6%	
同15年度	121,801円	25,546円	21.0%	49,183円	40.4%	税制改革
同16年度	資料がなく不明(この年から「教育費」のうち「教員の給与」は北海道が負担することとなる)					
同17年度	143,404円	35,617円	24.8%	58,380円	40.4%	
同18年度	158,397円	45,450円	28.7%	51,911円	32.8%	
同19年度	185,805円	56,262円	30.3%	50,718円	27.3%	
同20年度	159,611円	69,682円	43.7%	23,661円	14.8%	

経済再生計画を策定

昭和期に入り端野村の基幹産業である農業は大きな試練を迎えました。

昭和四年、アメリカを襲った金融恐慌に端を發した世界的な経済不況に追い打ちをかける自然災害による農作物の被害は、農村経済を一層深刻にしました。端野村にあっては、昭和六年(一九三一)、同七年(一九三二)と連続して低温、日照不足、水害等により農作物に大きな被害が出ました。

農産物価指数は、昭和元年(一九二六)を一〇〇とすると、同六年は五四・五と半額近くまで下落し、農家の負債は全道平均で一戸あたり一〇〇〇円となり、平均年収を超える状況でした。

この難局を打開するため政府は、同七年九月、「農山漁村経済再生三関スル件」を道府県に通達し全国的に経済再生計画の策定を進めることとしました。

北海道も同年一〇月、次のような「農業合理化目標」を定め、各町村に経済再生計画を策定するよう指導を開始しました。

【農業合理化目標】

①農業経営の複雑化②農業経営の集約化③長期輪作化④地力の維持増進⑤農業の機械化⑥特殊土壌の改良⑦農作物の倍収並びに特産物の選定⑧防護植樹⑨住宅並びに生活の改善⑩農産加工化⑪農産物販売の改善

これを受け端野村は、「第一期経済更正計画町村」としての指定を受け、「端野村経済厚生計画」から現在の「農業振興計画」と同様な計画の策定に取り組みました。
策定した端野村経済厚生計画の概要は、次のような内容のものでした。

【端野村経済厚生計画（概要）】

計画は、「専ら生産ノ増加ヲ目標トシ即チ當時一戸平均尅千円程度ナリシヲ五年後ニ於テ尅千五百円ニ達セシム」とした、次の七つの方針をもって達成するものでした。

- ①農業経営の複雑化
- ②農業経営の集約化
- ③長期輪作形式の確立
- ④地力の維持
- ⑤農業の機械化
- ⑥家屋並びに生活改善
- ⑦生産物販売の統制

この計画により、端野村をはじめ、端野村農会、端野村中央産業組合、端野村三区産業組合、端野村川向産業組合の三産業組合が昭和九年（一九三四）一二月に合併し、補償責

任端野村信用購買販売組合となり、各字区農事実行組合との連携のもとに各事業が実施されました。

計画事項のなかで目標を達成できない事項もありましたが、農業経営指導体制と実行体

制の整備が整い、農業経営に対する意識の向上と共に経営の合理化が進み、網走管内では有数の農業の村として発展しました。

なお計画達成年度の昭和一二年（一九三七）末における実績表は、次表のとおりでした。

▼端野村第1期経済厚生計画実績表（昭和12年末）

計画事項	単位	計画時	目標	実績	達成率%
農事実行組合普及	組合	二二	三四	三六	一〇六
産業組合員増加	人	三四一	七四一	七三五	九九
産業組合貯金増加	円	二四、七七三	五四、七一二	二四八、二九一	四五四
農家簿記普及	戸	一八〇	七五〇	三八一	五一
堆肥増産	千メ	三、〇一五	八、九六七	七、八九七	八八
堆肥場設置	坪	一、九〇六	七、五五五	四、〇〇五	五三
緑肥間作	反	五〇〇	七、二〇〇	二、〇〇〇	二八
秋耕励行	反	一〇〇	一七、〇六〇	二、〇〇〇	一一八
深耕	反	四〇〇	四、〇〇七	三、六八〇	一六七
吹貫小屋設置	台	一、二〇〇	六、〇四〇	三、三六〇	五六
噴霧器普及	所	六〇	二、三〇〇	三、四一	一四九
共同作業所設置	頭	〇	五	三	六〇
畜牛	斗	一、二九〇	三、四八	三、二六	九四
自家用醤油醸造	%	二	二、五〇〇	八四〇	三四
販売統制（販売言対）	間	一〇〇	六、五〇〇	四、〇〇〇	一〇〇
風防林設置（延長）	円	四五〇	一八、四八〇	六、五〇〇	三五
備荒貯金					